

<解答例>

【課題 1】

「被う」②（レインコート）・④（下着）（・③駅員さんの服）

「装う」①（花柄のブラウス）・③（駅員さんの服）・⑤（ドレス）

【課題 2】

	どのように使われたか
絹	〔 豪族や貴族など身分の高い人々が着るものとして。 〕
麻	〔 一般の民衆が着るものとして。 〕 〔 夏の着物として。 〕 袴として。
木綿	〔 武士たちが鎧の下に着るものとして。 〕 〔 民衆の着物の素材として。 〕 旗、のぼり、火縄、帆として。
毛織物	〔 コートやセーターなど防寒用の衣服として。 〕

【課題 3】

③

【課題 4】

	(1) 布の特徴や触り心地	(2) 適する衣服
絹	つるんとした、少し光沢がある しなやか、なめらか	ドレス、パジャマ、 スカーフ、ブラウス
麻	ごわごわした、ぱりっとした ざっくりとした、目が粗い、 かたい	夏のジャケット (帽子)
木綿	肌ざわりが良い、柔らかい さらっとした	白衣、パジャマ ワイシャツ、ブラウス エプロン

【課題 5】

- ・外側に風を通さないジャンパーを着て、冷たい空気を衣服の中に入れず、暖かい空気は外に出さないようにする。
- ・内側には汗を吸いやすいものを着て、余計な水分を取り除く。
- ・真ん中には毛のセーターやフリースなど、空気をたくさん含む服を着る。
- ・重ね着をして、衣服の間に空気の層をたくさん作る。 等

【課題 6】

解答例 →1 花屋さん

「被う」・水を扱うので、防水性の高い素材の服や靴にした。

- ・花を長持ちさせるために室温を低くしているので、長袖にした。
- ・とげなどが刺さらないように手袋をした。
- ・土などを扱うことがあるので、汚れないようにエプロンをした。
- ・動きやすいように、伸縮性のある素材の服にした。

「装う」・花をきれいに引き立たせるような色の服、シンプルな服にした。

- ・明るいイメージの花柄にした。

【発展】

解答例 →2 ゴミ収集員

「被う」・においや汚れが付きにくい素材のもの。

- ・雨の日にも仕事ができるように防水性のある服。
- ・日差しを避けたり、木や柵などの突起物に引っかけてもケガしたりしないように長袖にした。
- ・とても重労働で汗をかくので、半袖にした。
- ・危険なものに触っても大丈夫なように、分厚い手袋をした。
- ・走り回るので、丈夫なスポーツシューズにした。

「装う」・明るいイメージを与える柄にした。

- ・汚れが目立たないような色にした。
- ・道路で目立つように派手な色にした。

3 くだもの農家

「被う」・虫に刺されないように、長袖・長ズボンにした。

- ・小さな道具が入るようなポケットを付けた。
- ・高いところの作業がしやすいように、腕や肩が動かしやすい形にした。
- ・木の枝に引っかかってケガをしないように、頭を帽子やバンダナで覆った。
- ・水や泥をはじくような素材の靴にした。

「装う」・農業のイメージを明るくするために、おしゃれな色や柄にした。

- ・育てている果物の宣伝も兼ねて、果物の柄にした。
- ・果物が目立つように、違う色にした。
- ・虫が好まない色の服にした。(←「被う」に書いても良い)

4 薬局に勤める薬剤師

「被う」・薬品が肌に付かないように、長袖長ズボンにした。

- ・何か薬品などが付着した時にすぐに分かるように、白衣にした。
- ・薬を吸い込んだり、つばを飛ばしたりしないようにマスクをした。
- ・調合するために、手袋をした。

「装う」・清潔感があるような色にした。

- ・患者さんが癒されるように、やさしい色にした。